

巻頭特別企画

87歳プレイヤー 横山隆雄さん (東京都シニアサッカーリーグO-80で活躍中) インタビュー

「サッカーを 楽しむことで 長くプレーできる」

TOKYO FA's Pick Up

スポーツセーフティー講習会

GAME REPORT

第29回東京都サッカートーナメント

2024東京国際ユース(U-14)サッカー大会

第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会

REPORT

JFAユニクロサッカーキッズ in 東京

東京レフェリーアカデミー春季実技研修会

「サッカーライフ」

カフリングBOYS東久留米 梶尾雅子さん

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田（和田長浜海岸側）
2021年4月
取得名義：株式会社スカイ・ランド
（日本水資源開発株式会社関連会社）

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒142-0063 東京都品川区荏原3丁目2番6号
TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

最善を望み、最悪に備える スポーツセーフティー講習会

6月20日(木) スポーツセーフティー講習会が東京体育館第1会議室で開催され、フットサル委員会・フットサル運営スタッフ、そしてキッズ委員会のスタッフ約20名が受講した。



NPO法人スポーツセーフティージャパン代表理事の佐保氏



実際にスパインボードで固定・搬送を体験

スポーツ現場の安全な環境作りの必要性

「スポーツの現場でいかに安全を管理するか、いつ起こるか分からない事故に対してどう対処するのか、すべてに通じる講習内容ですので認識をもって受講いただけたらと思います」と、この日の講師であるNPO法人スポーツセーフティージャパン代表理事の佐保氏が登壇し挨拶をした。

スポーツセーフティーで最も重要なことは死者を出さないこと。スポーツにおける死亡事故の三大要因(HEART、HEAD、HEAT)は“トリプルH”と呼ばれ、心臓、頭部(および首)、熱(熱中症など)に関わるもので、実に9割近くがこれに集約されている。その中でも心臓に何かしらの負担がかかり心肺停止になってしまうケースが一番多いという。この講習会では“トリプルH”を中心に事故が起きたら何をすべきか、起こさないためには、どんな準備をするのか、また緊急対応時についての説明がなされた。

スポーツ現場では、どんなアクションが起こせるのだろうか。人間の犯すミスのは半は無知からくると言われているが、佐保氏は人とモノと体制の重要性を説いた。

知る=人 ● 備える=物 ● 整える=体制

安全な環境作りを含めての「スポーツセーフティーアクション」の必要性を訴えると、安全を構築するための検証をすることを薦めた。

特に大会を運営する側には安全配慮義務が発生する。スポーツ現場は怪我や事故がリスクゼロとは言い難く、起こりうる危険を想定し、回避するための対策を講じることが重要になる。「訴訟になった場合には、事故後は焦点になりません。事故の時間軸が焦点となります。知識を付け準備をして整えた上で起こった事故が否かで裁判も変わってきます。予測して回避することが重要になり、これが安全の考え方です。事前に何をするか、安全確認の体制作りをしていただきたい。事前にやること、起こった後にできることを全部含めたものがスポーツセーフティーだと思っていただけ」と佐保氏は話した。

第1部の座学では、参加者らは真剣な表情で熱心に聞き入り、持参したノートや配布された資料にペンを走らせる姿があり、その後、“トリプルH”についての対処法や実例についてのセッションへと移った。



人体図にAEDを貼りつける様子

HEART <突然心停止>については、心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の機能や役割、使用法、注意点、そして効果を映像やスライドを使って教示。仮に試合中に心停止が発生した場合、AEDがあれば命助けられる可能性も高まるのだが、それを誰が取りに行くのか、誰が救急車を呼ぶのか等を明確に決めて、タイムロスをなくすことの重要性が説明された。

HEAD <頭部および首>については、外傷の症状の特徴をよく知っておくことや1秒でも早く搬送できるよう近くの脳神経外科を調べておくこと、復帰へのプロトコルを医療機関の指示のもと進めることが示された。

HEAT <熱中症>については、熱失神、運動誘発性筋けいれん、熱疲労、熱射病などの症状の種類、氷水に全身を浸すなどの対応ができる環境の確保などが伝えられる。

佐保氏は「1秒でも早く医療機関に受け渡すためのEAP(Emergency Action Plan)と呼ばれる緊急時対応計画を策定し、安心安全なスポーツ環境を提供する」ことへの重要性を説く。

第2部の実技ではスパインボードによる全身固定や搬送について学習。実際に、会場の東京体育館内に設置されたAEDの場所を確認したり、またAEDの使い方やデモンストレーションを行い、日常生活においてもAED設置場所を意識するなど、AEDへの関心を高める内容となった。最後に質疑応答や意見交換などが行われ、『最善を望み、最悪に備える』ための学びの場となった。

スポーツ事故ゼロを目指し、こうした情報や知識が現場で共有されることに期待したい。

COMMENT



フットサル委員会 松村 栄寿委員長

コロナ禍もあり4年ぶりの開催となりましたが、前回からアップデートされていた部分もあり勉強になりました。スポーツ現場の安全管理を把握することが大事だと率直に思いましたし、この講習会の知識を生かすことが大事になると感じました。このことを現場に浸透させること、そしてスポーツセーフティーの重要性を改めて感じました。



フットサル運営部会 柏木 顕部会長

選手同士のコンタクトによる事故は起こりえるものなので改めて予防や準備の大切さを感じました。もし事故が起きてしまった場合には教えていただいたことを実践することで対応することが出来ると思いました。運営スタッフやボランティアに浸透させ選手の安全を一番に考えて、しっかりと運営していきたいです。

87 歳プレーヤー 横山隆雄さん（東京都シニアサッカーリーグ O-80 で「サッカーを楽しむという



シニアサッカーのチーム数や登録数が、年々増加するなか、最高齢カテゴリーである O-80 リーグで活躍する横山隆雄さん（前列中央）に、これまでサッカーがもたらしたものの、プレーする楽しさの原点などを聞いた。（取材日：7 月 25 日）

気軽に、ほどよくやるのが長続きの秘訣

——サッカーを始めたきっかけについて教えてください。

横山 子どもの頃はサッカーがなかったに等しいと言うか、みんなが野球をやっていました。神奈川県立神奈川師範学校（現：横浜国立大学の前身）に通っていましたが、サッカー部はないけれども、男の子は休み時間になればボールを蹴っていて、そこでサッカーを知りました。小学4年生の頃ですね。そして本格的に打ち込み始めたのが高校生の時です。

——高校生の頃を振り返ってもらえますか。

横山 （慶応高校）サッカー部はものすごく弱くて、同期には二宮寛（元日本代表監督で2015年第12回日本サッカー殿堂入り）がいました。あの頃は大会形式も今とは違っていて神奈川県で勝っても全国大会には出られず、山梨県と戦って勝たなければ全国に進めませんでした。

——どのポジションでプレーをしていたのですか。

横山 3バックの中央か、場合によっては左でした。もちろん今とは全然レベルが違いますが（笑）。

——そのまま大学に進学されてもサッカーを続けられたのですか。

横山 はい。僕は平凡な選手でした。チームが強かっただけで2年生の時に天皇杯を獲りました。ただメンバーには入りましたが、あの当時のルールは交代枠がなく、誰かが怪我をしても交代枠がない。現在では考えられないルールでしたね（笑）。慶応BRBというOB選手も交じっていたチームで、チームの優勝回数は最多タイだと思います。

サッカーを楽しめ、楽しめ

——どのようなプレーを得意としていたのですか。

横山 私は足が速い訳でも技術があった訳でもありませんが、仲間にはポジション取りが良いと言われていました。強いて言えばゴール前でボール保持者から引っ掛けて奪うようなプレーですかね。

——大学を卒業し、一度、サッカーから離れ、再びピッチに戻ってきた理由はなんですか。

横山 プレーすることはなかったのですが慶応大サッカー部のOBとしてコーチというよりも運営やマネージャーのような立ち位置でチームに関わっていました。そして40代になってOB同士でサッカーをしようという話になりました。旧制高校OBが中心となって結成されたSOI（サッカーOBインターハイ）の流れもあり、対抗試合や練習試合をする時に若い選手が少なかったのも、その時に声がかかったのがきっかけです。

——これまで挫折や苦勞したことなどはありますか。

横山 サッカーではありません。また上手な選手にジェラシーを感じることもありません。

——昨年、大病を患ったということを知りました。その中でも、再び、この活動に参加しています。

横山 去年の10月に癌になり手術をしてまだ治療中ですが、4月から体を動かしています。ここにくればいつものメンバーがいますし、ボールを蹴るのも楽しいですね。

——サッカー以外のスポーツの経験はあるんですか。

横山 遊び感覚で何でもやりますよ。

——今、気になる選手や好きなチームはありますか。

横山 慶応大の試合は、ほとんど観に行っています。身びいきですね。今は関東大学サッカーリーグ2部で上位争いをしているので、ぜひ来季は1部に昇格して欲しいと思っています。2年生に塩貝健人という優秀な選手がいるんです。U-19日本代表にも選出されていて、6月に行われたモリスレベロトーナメントでのイタリア戦ではハットトリックを達成しています。推しの選手です。それと日本代表の活躍は気になります。

——今のサッカーを見て感じることはありますか。

横山 ただただ上手いですね。僕がここまでやれているのは大学時代もあまりやってないからでしょうね（笑）。

活躍中) インタビュー

部分が一番大きい」

——今の若い世代にエールを送るならば、どんな言葉を送りますか。

横山 楽しめ、楽しめです。

——サッカーを続けていくために大切だと感じていることはありますか。

横山 何が大切なんですかね(笑)。好きと言うか、サッカー馬鹿な部分ですね(笑)。

——今年誕生日を迎えると88歳となられますが、今日までサッカーを続けられている原動力を教えてください。

横山 分かりませんね。それは自分でも不思議です。1つ言えるのはサッカーをやってきて嫌な思いをしたことがありません。ただ良い仲間ができたこと、特に大学の同期が素晴らしい人たちがばかりで良い仲間と巡り逢えたと思っています。考えて見れば大学時代の監督やコーチ、友だちなど素晴らしい人たちがばかりでした。だから自然に続けられていると感じます。

——東京都シニアサッカーリーグの活動に参加しての感想を教えてください。

横山 楽しいですよ。でも楽しみの中でも勝敗は別物。勝つことが一番楽しいです。私だけでなく、参加するみんなは勝敗を気にしています。

——また2023年にO-80のカテゴリーが立ち上がったことについては、どういう感想をお持ちでしょうか。

横山 できる人がやっているだけであって成り行きですよ(笑)。ただみんなと顔を合わせる機会があるので楽しいです。サッカーができることを楽しみにしようと思っています。

——横山さんにとってサッカーの存在とは。

横山 何でしょうね。サッカーを考案した人は上手いスポーツを考えたものだと思います。人生ではないけど言葉で表すのも難しいですね。世界中が熱狂するスポーツですし、自分も深く考えてサッカーをやっている訳ではありませんが惹きつける魅力があると思います。こんな歳になって、こんな暑い中でもやっている訳ですから(笑)。楽しむという部分が一番大きいですね。



楽しみながらも勝負にこだわりプレーをする横山さん

——これからもサッカーと、どう向き合っていきたいと考えておられますか。

横山 そういう堅い話の適任者ではないんですけど(笑)。私は強い気持ちを持っていなくても長くやれています。はたから、(この年齢で)見るとすごいと思われるかもしれませんが自分自身では、それほど考えていません。気軽にほどよくというのが長続きすると思います。

——最後にメッセージをお願いします。

横山 楽しんでプレーして欲しいです。ただ勝つことは嬉しいですよ。



取材当日は、10分を数本プレーする練習会に参加

横山さんとサッカーを楽しんでいる方のコメント



伊藤朝男さん

僕より、ひと回り上の先輩ですが穏やかで紳士な方だと感じています。旧制高校のOBたちが定年になり集まって定期的にサッカーをしようと言う話から50年以上が経ちましたが、幾つになられてもサッカー一面ではピッチに立てば熱いものがあると感じています。今87歳だと思いますが90歳になっても現役でサッカー選手を続けて欲しいと思っています。



坂本正夫さん

かれこれ20年以上、横山さんと一緒にプレーしています。非常に穏やかな方でラフプレーなどはしませんし紳士的な方。そして年齢に見合わず動き突っ走るタイプだと感じています。あの年齢の中では横山さんがピカイチですね(笑)。ぜひ100歳までは続けて欲しいですし、私もそれに続きたいと思っています。まだまだ私も現役としてサッカーをやり続けたいですね。

横山さんがお生まれになった1936年とは。

■ 1936年生まれの名有名人

川淵三郎さん 長嶋茂雄さん 北島三郎さん

■ 1936年の出来事

日本代表がオリンピックサッカー競技初参加。スウェーデンと対戦し、3-2で勝利「ベルリンの奇跡」といわれた。



PROFILE

横山 隆雄

1936年生(神奈川出身)。10歳からサッカーを始め、慶応義塾大学2年生時には第36回天皇杯優勝に貢献。2023年度には東京都シニアサッカーリーグ(O-80)においてレッドスターに所属し、初代リーグ戦での優勝メンバーとなる。なお父は昭和を代表する漫画「フクちゃん」を描いた横山隆一氏である。



横河武蔵野FCが4大会ぶり5度目の優勝 第29回東京都サッカートーナメント



スタンドのサポーターと優勝を喜ぶチーム

一体感を武器に戦った横河武蔵野FC（JFL）がドラマティックな展開を制した。決勝は、味の素フィールド西が丘で行われ、横河武蔵野FCが1-1からのPK戦（5-4）で、日本大学（関東大学1部リーグ）を下し、4大会ぶり5度目の優勝を飾った。

主催：（公財）東京都サッカー協会

共催：東京新聞・東京中日スポーツ、共同通信社

日時：2024年5月11日（土） 会場：味の素フィールド西が丘

「サッカーを楽しんだ」横河武蔵野がPK戦を制す

「PK戦は運もあったが、最後まで諦めずに戦った結果。この日、『サッカーを楽しんだ』ということにつなげたいですし、それがあったからこそ余裕の部分もあったり、危ないシーンを盛り返せたと思っています」と横河武蔵野の石村俊浩監督は振り返った。

試合序盤は日本大学がボールを保持し、[3-4-1-2]の布陣で両ワイドを使った攻撃を見せ相手陣内に攻め入ると、20分にはFW熊倉弘達がミドルシュートを狙うがシュートは枠外に。これに対し横河武蔵野は4-4-2の布陣で構え、39分ロングボールのこぼれ球を拾いカウンターを仕掛けFW石原幸治がシュートを放つも相手キーパーに収められてしまう。

そのまま前半をスコアレスで折り返し、後半を迎える。横河武蔵野キャプテンのDF小林大地は「一発勝負で硬くなるのは仕方がない。保持されても最後の最後で決定的なピンチは作られていなかったのがポジティブに前半を終えました。『後半はサイドで高い位置を突破しクロスを上げ切る、足を振るところは積極的に振っていこう』と意識して後半に入りました」とハーフタイムでの修正点を語った。

ディフェンスの裏にフォワードを走らせて起点を作り、相手を押し込み前向きにプレーすることで日本大学のゴールに迫っていくと59分、コーナーキックのチャンスでFW新関成弥がヘディングで合わせてゴールネットを揺らした。新関は「マークがずれていたもので、ニアか、その中間に（ボールが）来そうだという感覚がありました。ヘディングも武器なのでふかさなことを意識しました。前半は、なかなかシュートを打てなかったもので、少ないチャンスを決め切れたことが良かったと思っています。」とゴールを振り返った。

その後、65分にはスルーパスに抜け出た石原が、日本大学GK岡本重鶴を交わしてペナルティーエリア内でシュートを打つが、枠を捉え切れずにビッグチャンスを逃してしまう。日本大学は1点のビハインドを追いかけ横河武蔵野の最終ラインの背後を突き続けることでリズムを掴むと、試合終盤の90+6分、コーナーキックの流れからDF國枝蒼空が、こぼれ球を右足で蹴り込み、同点に追いつき延長戦へ。このドラマティックな一戦は延長戦でも決着がつかず勝敗はPK戦に委ねられることに。両チーム3人目まで成功し、日本大学の4人目、横河武蔵野の5人目が失敗。6人目は横河武蔵野が決め、日本大学のFW平尾勇人のキックをGK末次敦貴が止める



CKからヘディングシュートで貴重な先制点を決めたFW新関成弥



試合結果

第29回東京都サッカートーナメント決勝

横河武蔵野FC 1 - 1 日本大学

0	(前半)	0
1	(後半)	1
0	(延長前半)	0
0	(延長後半)	0
5	PK	4

得点者：59分 新関 成弥（横河武蔵野）
90+1分 國枝 蒼空（日本大学）

とピッチに歓喜の輪が広がった。

小林は喜びの表情を浮かべながら「本当に良かった。チーム結成当初から掲げていた天皇杯本戦出場という目標を達成できた。キャプテンとしてその責任を果たさなければいけないと思っていたので最高です」と笑顔で話した。

激戦の中で勝利を手繰り寄せた要因は、どんな状況になっても最後まで一致団結しサッカーを楽しんだことだ。小林がPK戦に入る前の舞台裏を明かしてくれた。チームメイトを前に「90分戦って、そして延長戦の20分を戦って、体力的にはきつくボロボロだけど『楽しんでPK戦をやろう』と話をしました」。

一体感があるからこそ生まれた気持ちの強さと目標を実現するあふれる気概が今のチームにはある。「それが僕たちの特長で、みんなが丸となっている。他にはないチームワークがある」とキャプテンは胸を張った。

日本大学は土壇場で追いつくもPK戦で涙を呑む

一方、48大会ぶり3度目の天皇杯出場を目指した日本大学は、アグレッシブなサッカーを展開するという、自分たちらしさを経験値の高い横河武蔵野に阻まれた。前線からアグレッシブにプレスに行き奪い切る形は何度かあったが、横河武蔵野にロングボールを蹴られ守備がハマらずセカンドボールの回収で後手に回った。特に前半はボールを保持しても相手の目の前で回すだけで裏返すことができず、相手に狙い通りの守備をされてしまった格好となった。

日本大学の川津博一監督は「後半、同点に追いつく前の10分、15分前ぐらいは揺さぶりながらゴール前で仕掛け、追いついたまではよかったのですが、その流れで延長をものにできなかったことが敗因だと思います」と話すと「この景色が見えたので、またこの舞台に戻ってきたいと思います」と前を向いた。



アディショナルタイムにCKの流れから國枝蒼空が同点ゴールを決める

5月25日開催 天皇杯1回戦 試合結果

栃木シティ 1 - 0 横河武蔵野FC

0	(前半)	0
1	(後半)	0

得点者：48分 鈴木 国友（栃木）

国立のピッチで子どもたちの笑顔が溢れる JFA ユニクロサッカーキッズ in 東京

主 催：(公財) 日本サッカー協会、(公財) 東京都サッカー協会
特別協賛：(株) ユニクロ



国立のピッチに抽選で決定した1969人が集まった



一生懸命1つのボールを真剣な表情で奪いあう

ボールに触れることがサッカーの入り口に

6月9日(日) JFAユニクロサッカーキッズin東京が国立競技場で開催され、200チーム以上の申込の中、抽選で決定した144チーム(1,969人)の元気な子どもたちが参加し、ボール遊びを楽しみました。鮮やかな緑色のピッチには多くの笑顔が溢れました。

今回で22回目を迎えるこのイベントは、株式会社ユニクロの協賛のもと、JFAキッズプロジェクトの一環としてスタートをしました。東京都サッカー協会は2006年から携わっています。6歳以下の未就学児を対象に、「誰でも楽しく参加できる無料のサッカーフェスティバル」をコンセプトに、順位付けをせず、参加者がボールを蹴り、試合を楽しむことを目的としています。プロ選手が使用するスタジアムのピッチでサッカーを楽しむ貴重な機会となり、サッカーやスポーツとの出会いの場として、また自立心や協調性など豊かな心を育む場としても期待されています。

スペシャルゲストのJFAユニクロサッカーキッズキャプテンの内田篤人さん、元日本女子代表の鮫島彩さんが国立競技場のピッチに登場すると、会場は大いに盛り上がりました。また、子どもたちに人気のポケモンに登場するキャラクター「エースバーン」も応援に駆けつけました。そして、ユニクロの特別シャツを着用した子どもたちは、EXILE TETSUYAさん監修のもと、日本サッカー協会が開発した「クラッキ!ダンス」でウォーミングアップをし、内田さんと鮫島さんのキックオフセレモニーが行われた後、それぞれのコートに元気に散らばっていきま



ボールを必死に追いかける

この日のルールは6人制で、ゴールキーパーはなし。選手交代は自由でした。1試合10分で、12個のコートに分けて実施され、ボールは3号軽量球が使用されました。子どもたちは試合開始の合図と共に、一生懸命にボールを追いかけて、普段は足を踏み入れることのない国立競技場のピッチで仲間と蹴り合うという体験に、笑顔を輝かせました。

ゲームに参加した内田さんは、「上手だよ、上手だよ」、「ここでシュートを打とう」と声をかけ、シュートを決めた子どもに対しては、鮫島さんが

「ナイス、ナイス」とハイタッチをして迎えるなど、喜びを分かち合いました。また、ピッチの外周にはキックターゲットなどのアトラクションや、全身を使いダイナミックな運動ができる様々な遊具が多数設置されていました。参加者は、時間の許す限りイベントを存分に楽しんでいました。

内田さんは、「子どもたちは楽しそうですし、一生懸命にボールを追いかけてくれます。自分も子どもがいるので、こうやって夢中になってくれたらいいですし、この中からプロのサッカー選手が生まれればいいですけど、運動することの良さをサッカーを通じて感じることも非常に多いと思います。集団で行動することや社会で生きていくことも大事ですし、こういう基本的なことをスタートとして、子どもたちに学んで欲しいです」とコメントしました。鮫島さんは、「子どもたちが元気で、私も声が枯れ気味です。ここまでの大人数の子どもと触れ合うのは初めてなので、自分にとっても良い機会になりました。国立の芝の上でボールを蹴ることは、なかなかない経験だと思うので、楽しい思い出として持ち帰ってもらいたいという思いでした。体を動かすことの楽しさやサッカーが楽しいと思ってもらえたら最高ですね」と感想を語りました。



みんなで集まって話を聞く

こうしたフェスティバルや巡回指導の積み重ねが普及を支える軸となることは間違いありません。東京FAキッズ委員会の平野正義委員長は、「多くの子どもたちの笑顔を見ることができ、大成功だと思っています」と話すと、「今日、ここでチームメイトと一緒に楽しくプレーする姿を見て微笑ましい気持ちになりました。参加者全員が積極的にボールに触れることを目的とし、これが入口となり将来サッカーを続けてくれることが、日本サッカーの向上につながると思っています」と和やかな顔で話しました。



手を挙げてボールを要求する



サンパウロ FC が宮城県トレセンを PK 戦で破り優勝

2024 東京国際ユース (U-14) サッカー大会



選手宣誓をしたFC東京深川の圓谷 優選手



PK戦で肩を組んで見守るサンパウロFC



優勝したサンパウロFCを賞賛する他チーム

Jヴィレッジに海外4都市を含む
12チームが集結

海外の強豪チームとの試合を通じたジュニアユース世代(14歳以下)の選手の競技力向上と相互理解等を目的として2008年から行われている「東京国際ユース(U-14)サッカー大会」が5月4日から6日に開催。14回目となる今年は、昨年に続き海外4都市を含む12チームが福島県のJヴィレッジに集結して行われた。

大会は4日に1次ラウンド、5日に1次、2次ラウンドが、最終日の6日に2次ラウンド(決勝含む)を実施。東京都からはトレセン選抜、中体連選抜、FC東京深川、東京ヴェルディの4チームが参加。また、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の選抜チームに加え、海外からも北京、カイロ、ジャカルタ、サンパウロといったチームが招待された。

決勝はサンパウロFCと宮城県トレセン選抜が激突。立ち上がりから圧力をかけていった宮城は開始3分、DF吉田駿也(FC FUORICLASSE SENDAI)がプレスをかけて相手のパスミスを誘発すると、MF中島大和(FC FUORICLASSE SENDAI)、MF三井寺真(FC FUORICLASSE SENDAI)、MF小澤春太(ベガルタ仙台)とワンタッチで繋いで抜け出したFW阿部幹大(FC FUORICLASSE SENDAI)がエリア内で倒されてペナルティキックを獲得。このペナルティキックをキャプテンの三井寺がしっかりとキーパーの逆を突いてゴール左に決めて宮城が開始早々5分に先制した。

しかし、王国の意地があるサンパウロは後半アディショナルタイムの50+2分に、ショートコーナーからの混戦をDFルイージが押し込んで同点に追いつき、試合は大会規定によりPK戦に突入。先行の宮城県が2本目を失敗したのに対し、サンパウロは5人全員が成功し、歓喜の瞬間を迎えた。



先制点を決め歓喜の宮城トレセン



2024 大会 全試合動画公開中

サンパウロのラファエル監督も
日本チームの成長に驚き

優勝を決めたサンパウロ・ラファエル監督は「本当にすごく嬉しい気持ちでいっぱいです。対戦相手も含めて両チームともすごくハートが強くぶつかった試合だったからこそ、こういう素晴らしい決勝ができたと思います」とコメント。「日本チームの成長を見ると、ここにいる選手たちひとりひとりがオリンピック選手やワールドカップを目指せるでしょう。そういう夢の舞台を目指せる決勝の戦いだったと思いますので、本当に楽しみです。頑張ってると思います」と語った。

劇的同点弾を決めたルイージは「すごく苦しい展開で、最後まで結果がわからなかった状況でした。私たちも相当追い込まれた中で、最後こういう形でチームに貢献でき、結果私たちが優勝という形で終わることができて大変嬉しく思います」とし、大会については「個人的にもすごく良い体験で、いろいろ日本や海外のチームと交流ができたことは自分にとって、今後の自分の経験にも繋がった大会だと思います。繋げていきたいと思っています。選手たちだけではなく、素晴らしい施設であり本当にすべて揃っていて、選手のパフォーマンスが最大限発揮できるような大会でした」とコメント。「夢はいっぱいあります。それを少しずつ、自分の目標にしていきたいと思っています。まずプロサッカー選手になることであり、もっともっとこのサンパウロというクラブチームに貢献して、いつか代表、ワールドカップ優勝というところまで自分の夢を持ってやっていきたいと思っています」と自身の夢について語った。

なお、東京勢は北京との3位決定戦を制した東京都トレセンが最高位の3位、東京ヴェルディが7位、FC東京深川が10位、東京都中体連が11位という結果となった。

試合結果

2024東京国際ユース(U-14)サッカー大会

決 勝

宮城県トレセン
選抜

1 - 1

サンパウロFC

1	(前半)	0
0	(後半)	1
4	PK	5

得点者：5分 三井寺 真
(宮城県トレセン選抜)、
50+2分 ルイージ
(サンパウロFC)

■順位表

優勝	サンパウロ FC(サンパウロ)
準優勝	宮城県トレセン
3 位	東京都トレセン
4 位	北京
5 位	カイロ
6 位	福島トレセン
7 位	東京ヴェルディ
8 位	茨城県トレセン
9 位	岩手県トレセン
10 位	FC 東京深川
11 位	東京都中体連
12 位	ジャカルタ

フェアプレー賞 東京都トレセン

主催：東京都、(公財) 東京都スポーツ文化事業団、(公財) 東京都サッカー協会

後援：(公財) 日本サッカー協会、(公財) 日本プロサッカーリーグ、(株) Jヴィレッジ、福島県、福島県教育委員会、広野町、楡葉町

東京レフェリーアカデミー春季実技研修会

レフェリーアカデミーとは

2019年からの新事業で、22歳以下の将来性のあるS3級若手審判員を対象に、1年間集中的な育成指導を行い、S2級審判員への育成、更にはトップレフェリーを目指す地域アカデミーへと繋げていくものである。アカデミー事業としては、年3回の実技研修会を開催している。

2023年度アカデミー生を中心に17名(S2審判員、S3審判員、S3ユース審判員)とインストラクター4名が、2024東京国際ユース(U-14)サッカー大会で活動した様子を紹介する。



オフの時間は笑顔溢れる審判団

2024東京国際ユース(U-14)サッカー大会では、17名のアカデミー生が4つのグループに分かれて、全24試合の審判(主審・副審・第4の審判員)を担当した。

毎朝6時から始める屋外でのモーニングトレーニングは、インストラクターの指導の元、コミュニケーションを取りながらのウォーキング、腕立て伏せなどの筋力トレーニング、少数に分かれて試合中を想定したポジショニングの確認などを行った後、チームや他スタッフもいる会場で審判団での短い朝食時間を挟み、各ピッチへと分れて1日が始まった。

各試合前にはフィールドインスペクションを丁寧にを行い、また、2次ラウンドでは、試合前にユニホーム等の確認ミーティングを両チームや通訳を交えて実施した。本大会は、日本のみならず海外から4チームが参加しているため、通訳のいない試合中は日本語だけでなく英語を用いてのレフェリングが求められ、チーム役員や選手とのコミュニケーションに悪戦

苦闘するシーンも見られたが、自信を持って毅然とした態度で乗り切る姿や、時折チームとのやり取りの中で笑顔を見ることができた。試合終了のホイッスルまで全力で走り、ピッチから出るとホッとしている姿の審判員もいれば、高揚感に溢れている審判員もいた。

終了後には、ピッチ横ですぐにインストラクターからの振り返りが行われ、担当しない試合の見学をしながら身体のアフターケアもしつつ、次から次に行われる試合をこなしていた。夕食後は、短い休息後に全員で時間をかけて振り返り研修が行われた。

国際大会の経験、また東京を離れた3泊4日という宿泊を伴う実技研修会を通して、多くのものを吸収した2023・24年度アカデミー生。審判員としてだけでなくサッカー人として大きく成長することで、さらに上のステージで活躍することを願う。また、成長著しいアカデミー生が審判員として挑戦し続けてくれることを期待する。



試合中自信をもってジャッジ



英語を用いて説明



試合終了後に安堵した表情



6時開始のモーニングトレーニング



実際の映像を用いての振り返り

試合日の活動スケジュール

6時～6時30分	モーニングトレーニング
6時30分	朝食
午前	試合
午後	試合
18時30分	夕食
20時～22時	研修

U22以下でレフェリーに興味がある方、
随時アカデミー生募集中!!



少年男子が本大会出場決定

第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会



ゴールを決めて喜ぶ少年男子

主催：(公財)日本スポーツ協会、山梨県、関東ブロック各都県、関東ブロック各都県スポーツ協会、
(一社)関東サッカー協会・昭和町・荏崎市

大会期間：2024年8月10日(土)・11日(日)・17日(土)・18日(日)

2024年度 第78回国民スポーツ大会関東ブロック大会 サッカー競技の代表決定戦が山梨県で行われた。関東1都7県の8チームが少年男子、少年女子、成年女子のカテゴリーでトーナメント方式を戦い、9月21日から佐賀県で開催される本大会への出場を争った。

少年男子



本大会出場を決めた少年男子

自慢の攻撃力で昨年の王者を破り出場決定

少年男子は、東京都が昨年の国体王者である茨城県に4-2で勝利し、代表権を獲得。9月21日に佐賀県で開催する第78回 国民スポーツ大会に出場する。

試合は序盤から茨城県が主導権を握る展開になり、耐える時間が続いた。GKの渡邊麻舟(FC東京U-18)を中心にゴールを守るが、28分に茨城県に先制点を許した。しかし、ここから東京都もギアを入れなおして攻勢をかけると、前半アディショナルタイムに田中遥大(FC東京U-18)のクロスが茨城ディフェンスのオウンゴールを誘い、東京都が同点に追いつき、前半は1-1で折り返した。

このチームは、今までの試合で後半に複数得点をしてきたので、東京都の小野貴裕監督(関東第一高校)は「絶対に2点は取れるから」と選手たちを送り出した。選手たちがその声に応じて、後半早々37分、今井宏亮(東京ヴェルディユース)がドリブルを仕掛けると、茨城ディフェンスがたまたまペナルティエリアで倒してしまい、PKを獲得。そのまま今井がPKを決めて2-1と勝ち越した。さらに46分には黒木星南(横浜FCユース)のスルーパスで裏



PKを獲得した今井 宏亮が自らPKを決める

試合結果

茨城県	2-4	東京都
1	(前半)	1
1	(後半)	3

得点者：28分 正木 裕翔(茨城県)、35+3分 オウンゴール、
37分 今井 宏亮(東京都)、46分 友松 祐貴(東京都)、
62分 正木 裕翔(茨城県)、67分 四日 裕歩(東京都)

に抜けた友松祐貴(FC東京U-18)がゴールに流し込み、3-1とした。粘る茨城県もクレンジングブレイク明けの62分に3-2とするが、67分に四日裕歩(横浜FCユース)がカットインからシュートを決めて4-2として試合を決めた。試合はこのまま終了し、4-2で東京都が勝利した。

COMMENT

小野 貴裕監督

対戦相手の茨城県は、昨年、本大会の準決勝で敗れた相手だったので、まずその借りをしっかりと返して、そこから本大会に行きたいと思っていました。今年はスタッフも最高だったので、オール東京で、みんなで団んだ形だと思っています。昨年の本大会は3位なので、その上を目指していきたいと思っています。



キャプテン 松野 泰知(FC東京U-18)

このチームは、本当に元気があって、パッション全開のチーム。コーチもスタッフも選手も全員が、本当に勢いがあり、明るいチームです。茨城県は本当にいいチームだったし、昨年の本大会を優勝しているチームなので、そこに勝てたことを自信にして、絶対に本大会で優勝したいと思います。



TOPICS

6月10日

JFA 第24回全日本O-60サッカー大会

優勝 T・ドリムス60

決勝戦は激しくもフェアな攻防が続く試合となった。前半アディショナルタイムに右からのクロスボールを受けた岡本嘉章選手が左足で蹴り込み、T・ドリムス60の1点リードで前半を折り返す。後半は相手GKが中盤を支配するが、後半12分にはT・ドリムス60が中盤の選手たちの連携プレーから追加点。試合終了間際には岡本選手のアシストからタメ押しゴールが生まれ、T・ドリムス60が兵庫県シニア60選抜を破りO-60世代の日本に輝いた。

7月1日

JFA 第23回全日本O-50サッカー大会

優勝 T・ドリムス50

決勝は東京のチーム同士の顔合わせに。FC武蔵フットボール50が序盤は好機を作るも決め切れず。徐々に試合の流れを握ったT・ドリムス50は後半開始から途中出場の菅野賢一選手がドリブルで仕掛けて相手のファウルを誘発。前半のうちに交代出場していた野本英男選手のFKでT・ドリムス50に先制点が生じた。この得点を守り切ったT・ドリムス50が、2大会ぶり2度目の優勝でO-50年代の頂点に立った。

8月2日

第6回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

優勝 日テレ・東京ヴェルディメニナ

フジカル、スピードで上回るJFAアカデミー福島に対して、技術・判断の速さを出し続けるメニナがチャンスを作るも回さるを見せる福島がゴールを割られず、70分を戦ってスコアレスで延長戦となった。延長3分、GKのビルドアップを奪った真城美春のロングシュートがゴールに吸い込まれてゴール。これが決勝点となり、1-0で日テレ・東京ヴェルディメニナが勝利して、2連覇を達成した。

8月4日

JFA 第11回全日本U-18フットサル選手権大会

優勝 フウガドールすみだフールコンズ

決勝の相手はバルドラール浦安テラセロ。均衡が破れたのは18分。石井想一郎選手がカットすると、ループシュートでゴールを狙い、このシュートがゴールとなり、すみだフールコンズが望みの先制点を奪った。第2ピリオドに入っても、すみだフールコンズがボールを保持する展開に。終了間際の浦安テラセロのバウンスプレーもしのぎ、試合が終了し、すみだフールコンズが大会連覇を果たした。

8月6日

令和6年度全国高等学校通信制体育大会第34回サッカー大会

優勝 星槎国際立川

決勝戦が8月6日にAコースアジア日本平で開催されて、星槎国際立川が初の日本一に輝いた。1回戦はPKで勝ち上がり、準決勝まで接戦を勝ち抜き、決勝戦でも無失点の安定した守備と全員サカミをみせて、2-0で神奈川県立相模向陽館高等学校に勝利して、優勝を果たした。

少年女子



関東ブロックを戦った少年女子

高温のため後半が行われず悔しい敗戦に

少年女子は代表決定戦で茨城県と対戦し、0-1で敗れて本大会進出とはならなかった。

立ち上がりからロングボールとハイプレスをかけてくる相手に対してボールを握れず苦戦。チームとしてはMF黒川青空(浦和レッドダイヤモンズレディースユース)、MF角野心花(十文字高等学校)、MF上田璃奈(十文字高等学校)の中盤3枚にボールを入れてゲームを組み立てたかったが、相手が中を閉じてきたことで、そこに配球することができなかった。すると前半12分、一瞬の隙を突かれて失点した。



クーリングブレイク明けに投入された福島花菜

成年女子



関東ブロックを戦った成年女子

競り合う展開も終盤の1点に泣く

成年女子は1回戦で地元・山梨県と激突し0-1で敗れ、本大会出場とはならなかった。

持田紀与美監督は「今日の試合の流れを見たら、しっかり守って、1回のチャンスをしっかり決められたら、こっちのものになっていた。耐えて0-0の中で1点を相手に奪われてしまったので、点を取りに行くしかない流れになってしまった」と試合を振り返った。

東京都は前半、相手のロングボール攻勢に対し、中盤でなかなかセカンドボールを拾って繋ぎ切ってマイボールの時間を作ることができずに苦戦。その中でも「前半で試合が終わる可能性もあったので、とりあえず失点ゼロを意識していた」と話すDF田頭花菜(早稲田大学ア式蹴球部女子)を中心に粘り強く守り、相手FWとの1対1はGK清水美紅(十文字学園女子)



相手DFと競り合う柴田瞳

試合結果

茨城県 1-0 東京都
1 (前半) 0

得点者: 12分 田口 結菜 (茨城県)

それでもクーリングブレイク以降は落ち着いてボールを保持しながらゴールに迫るようなシーンも出てくるように。後半はMF長田結月(ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18)ら、フレッシュな選手を加えながら勝負をかけていく作戦だった。しかし、ハーフタイムにWBGTが31を超えたため後半は行われず、悔しい敗戦。李漢哲監督は「レギュレーションなので、仕方がないことだとして受け入れた。ただそのレギュレーションも知った上でミーティングでは『前半の勝負が大事だよ』と言ったので、そこで力を出し切れなかったという点では自分たちの力が足りなかった」と話した。

今年はFW新田彩和(浦和レッドダイヤモンズレディースユース)やDF清水和楽(ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ)といった年代別代表経験者など、力を持った選手も多かっただけに悔しい敗戦となった。DF小宮梢(浦和レッドダイヤモンズレディースユース)主将は「佐賀に行って優勝したかったんですけど、そこは終わってしまったので、自チームに帰って、まずはしっかりと試合に出て、冬の全国大会、選手権で優勝したいと思っています」と前を向いた。



新田彩和が相手ゴールに迫る

試合結果

東京都 0-1 山梨県
0 (前半) 0
0 (後半) 1

得点者: 43分 山名 映理 (山梨県)

子大学)が阻止してスコアレスで前半を終える。後半の立ち上がりは、ウイングバックが高い位置を取りながら右のMF大西若菜(日体大SMG横浜)がカットインを狙い、そこからのコーナーキックで迫る場面もあったが、得点には繋がらず。すると43分、エリア右外からミドルシュートを対角に決められ失点をして、これが決勝点となった。

ほぼ山梨学院大学の単独チームの相手に対し、東京都は十文字学園女子大学、日本大学、早稲田大学、日本体育大学、国士舘大学の5チームからの編成。なかなか練習時間も取ることができない難しい面もあった。その中で直前の2泊3日の御殿場合宿で合わせながら今大会に挑む中で、持田監督は「みんな限られた時間の中でしっかりチームワーク良く、最後まで諦めないで戦ってくれた。残念ですけど、選手たちひとりひとりは十分よくやってくれたと思います」と話した。

今後は、この経験を糧に大学リーグでの飛躍を目指す。清水は「コミュニケーションの必要性を自分的に学べたので、そこはチームに帰っても活かせると思う」と話し、大西は「このメンバーとはインカレで戦うと思う。この経験を活かしてもっと個人的にもレベルアップして、インカレで良い勝負ができるように頑張りたい」と語った。



白井美羽が中盤でボールを奪い合う



サッカー LIFE

～サッカーファミリーのサッカーライフを紹介～

たくさんの人に支えられている TOKYO FOOTBALL
どのような人がどのように関わっているのか知ってもらいたいそんな思いから生まれました

FC フェンテ東久留米 O-40 及び カフリング BOYS 東久留米スタッフ 梶尾 雅子さん



スタッフ兼選手 Q&A

所属しているチームは？

産前は FC フェンテ東久留米ではマネージャー、カフリング BOYS 東久留米では選手でした。今は、FC フェンテ東久留米 O-40 とカフリング BOYS 東久留米で登録等の申請関係を手伝いつつ、選手としてはカフリングマザーズでフットサルを続けています。

ライフステージに応じて、サッカーやフットサルを楽しめる環境があること、地域と繋がりを持つことに、ありがたいご縁だと感謝しています。

サッカーを始めたきっかけは？

中学・高校ではバスケットボール部でした。
小学生の頃からサッカーをやりたいかったのですが、環境がなく、大学に入ったらやると決め、サークルでフットサルを緩くやる予定が、肌に合わず、サッカー部監督に、とりあえず入ってみれば？無理だと思ったやめればいいし。と言われて入部しました。代表・国体クラスの子ばかりで馴染むのに時間がかかりました（笑）。

サッカー・フットサルでのポジションは？

サッカーでは FW・MF（サイドハーフ）、フットサルではピヴォ※。失点に直接絡む DF やフィクソ※は避けています（笑）。

※ピヴォ：最前線 FW のような役割
フィクソ：後方 DF のような役割



ピヴォとしてアップではシュート練習も

主務を経験し学んだことは？

大学で選手をしながら 3 年が副務、4 年が主務を担当するのが通常ですが、先輩が選手を優先したいということで 3 年生から主務をしていました。その経験なくして今の私はいません。縁の下にいたからこそ選手の気持ちの分り、みんなも寄り添ってくれたので壁がなくなりました。何より助け合いの精神が芽生えました。

持っている資格や取ってみたい資格？

大学時に取得した C 級指導者ライセンスは失効してしまいました（笑）。社会人になって簿記を取得したことで経理を 10 年ほど担当しました。夏休み、子育てに行き詰まって、個性心理学インストラクター（動物占い）の資格を今秋取ることに決めました！

プライベート Q&A

1 日のスケジュールは？

6時 起床
8時～9時 小学校・保育園のお見送り
9時半～18時 仕事
18時 保育園お迎え
18時半～21時 夕飯・お風呂・洗濯・お皿洗い・寝る準備
21時半 絵本読み聞かせ・就寝

普段のお仕事は？

（公社）日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）のフットボール本部競技運営部に所属し、試合のユニフォームや登録選手の確認、毎月 MVP やベストゴール等を選考する委員会の担当をしています。

仕事の魅力は？

一言で言うは難しいのですが、私自身 FC フェンテ東久留米で Jリーグを目指していたので、たくさんの人が夢や憧れを抱く舞台に関わることはとてもやりがいがあります。あと一つ勝てば FC 町田ゼルビアと対戦する所まで進み、その時は Jリーグ職員がプライベートで Jクラブと戦いたいという密かな野望がありましたね（笑）。人生で大切なことの多くをサッカーから学んできたので、サッカーを通して豊かな人生を送れる人が増えたら嬉しいと思います。

「メリメロ」での活動とは？

メリメロとは、障がい者と健常者の壁をなくそうと活動（2012-16）していた団体です。
フットサル大会で聴覚障がいを持っている中村祥子さんに会ったことをきっかけに設立。
障がいを障がいと感じさせない社会を目指し、現在 JFA が行っているインクルーシブフットボールフェスタのような活動をしていました。

休日の過ごし方は？

専ら子ども達と遊んでいます。カフリングスクールに通う長男はお母さんとサッカーしたいと言ってくれますが、一度 PK 戦をやったら顔に当ててしまい鼻血が出て泣かせてしまいました（笑）。最近は Jリーグなどをスタジアムに見に行くこともあります。



試合を観に来た3人のお子さんと

梶尾さんからのメッセージ

様々なかたちでサッカーやフットサルに携わることで、その度にサッカーやフットサルがもつ可能性を体感してきました。
Jリーグも、試合を見ることももちろんですが、他にも色々な魅力があると思うので、それぞれの楽しみ方を見つけていただけたら嬉しいです。



From the Association

6月26日に行われた定時評議員会ならびに理事会において、2024年度・2025年度の役員が選出され、2018年より6年間会長を務めた林義規会長が退任し、植田昌利新会長をはじめとする各役員が就任いたしました。役割を果たすべく東京のサッカー環境を充実させていくため、ひとつひとつの課題に真摯に向き合い全力で取り組んでいきます。ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2024年度・2025年度役員一覧

理事 (19名)		監事 (2名)	
会 長	植田 昌利	福 田 雅	金子 哲郎
副 会 長	漆間 信吾 木下 由美子	特任理事 (6名)	
専務理事	猪鼻 剛	児玉 健生	齊藤 功
常務理事	川人 健太郎 石神 朋治	横山 重明	萩原 智博
理 事	河野 正人 赤星 真一 末永 孝彦 池内 成明 舩川 幸治 大野 博之 松村 栄寿 中田 康人 蒲澤 淳一 小佐野 貴子 江川 純子 深野 悦子 中山 千恵美	山藤 賢	平野 正義

植田 昌利 会長

当協会役職員や、JFA（日本サッカー協会）、TSPO（東京都スポーツ協会）役員としての長年の経験を活かし、開かれた組織と透明性のある事業を通して、豊かなスポーツ文化の振興に貢献していく所存です。

施設不足、指導者の資質向上（暴力・暴言根絶）、女子サッカーの普及、学校部活動問題等、検討すべき課題は山積していますが、サッカーファミリーのみなさまのご意見もいただきながら、一つ一つの課題に向き合っておりまいます。

そして、キッズからシニアまで、性別や障がいの有無にかかわらず、全ての人がサッカーを「する」「見る」「支える」、そして人と文化を「育てる」ことを全力で応援いたします。

昇任理事・新理事 就任の挨拶

木下 由美子 副会長

『健康寿命』が日本の将来を支えるキーワードであるならば、東京都サッカー協会の活動は、“サッカー”を通じて幼少期から老年期までの老若男女を元気にするエンジンです。技術力向上も大事、安心安全の確保も大事、サッカー人口の確保も大事。でも最後は、東京でサッカーに携わっている人みんな（プレーヤー家族や『見る専』の人も含めて）が、笑顔で「サッカー最高!」と言える環境を目指していきたいと考えております。

石神 朋治 常務理事（少年サッカー連盟）

4種年代の進歩と更なる育成に重点を置き、様々な事業を通じて、多くの選手がサッカーの楽しさを体感し、意欲的に積極的にサッカーと関わってくれることを願い、選手を取り巻く環境改善に力を入れ、参加者がさらなる成長を遂げることを期待しています。子供たちがこの素晴らしいゲームを通じて多くのことを学び、成長し、楽しむことを支援し、それを達成するために、私たちは共に努力し、協力していきましょう。

江川 純子 理事

この度、東京都サッカー協会の一員として活動させていただくこととなり、大変光栄です。私が初めてサッカーをプレーしたのは30歳を過ぎて仕事が忙しくなった頃でした。ホイッスルが鳴り、ボールを追いかけ始めると、悩みも躊躇も空に溶けて、元氣になりました。そういった経験も通して、国際都市・東京でサッカーのさらなる発展の役に立つよう、努めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

福田 雅 監事

昨今のスポーツ界においても、適正なガバナンス体制の構築とコンプライアンスの遵守は、当たり前のように叫ばれるようになりました。しかしながら、フットボールの現場において、その意味が正しく理解されているのかは、いささか疑問です。まずは東京FAから、まずは自分自身から。襟を正してフットボールと向き合うとともに、後進がいつか歴史を振り返るときに、自身が東京のフットボール界の礎となっていることを望みます。

猪鼻 剛 専務理事

東京は47FAの中では登録人数も予算規模も最大のFAです。この東京の取り組みこそが日本サッカーを支えるものであり、まさに屋台骨となりうるものです。

一方で、東京といえどもそれは一地方であることに変わりはありません。グローバルに考えローカルに行動する、この気持ちが大事ではないかと自覚しております。

終わりに、東京のサッカー発展のため、ひいては東京のスポーツ全般のため、精進してまいります。

河野 正人 理事（社会人サッカー連盟）

1種において福利厚生の一環で企業チームが大多数を占めていた時代から現在はクラブチームが増え、なかにはJリーグを目指すチーム、それに大学のチームと多岐に渡っており、連盟の果たす役割は大きいと感じます。

今後様々な問題への対応が求められる事となりますが、これまで社会人サッカーに携わってきた経験と周囲の皆様からご意見を頂き東京都のサッカーをより盛り上げて行くと共に生涯スポーツとしての発展に寄与してまいります。

深野 悦子 理事

その昔、共に審判を務めた植田会長より打診を受け、初めて足を運んだ理事会では旧知の猪鼻専務理事にお目にかかり不思議な感覚を覚えました。重責ですが、臆することなく、元審判員として、また、Jリーグの職員として、そして、何より期待されているであろう女性という視点で、東京FAの歩みに参加させていただきたいと思ひます。この原稿はサウジアラビアの Riyadh で書いており、グローバルな視点でも発言できればと考えております。

金子 哲郎 監事

中学校体育連盟在籍時には、理事として東京都サッカー協会に大変お世話になりました。つきましては、新陣容となりましたサッカー協会の適正な運営の一助として、一層の努力をいたす所存でございます。よろしくお願ひいたします。

川人 健太郎 常務理事（高体連サッカー専門部）

社会やスポーツ界を取り巻く環境が変化し、サッカー界も未来を見据えた変革を求められていますが、高校年代の選手達がこれからのサッカーを通して輝けるよう、様々な課題に向き合っています。東京から多くの優秀な選手が輩出され、サッカーを支え楽しむ人々がたくさん生まれるよう、微力ながら尽力させていただきます。

末永 孝彦 理事（シニアサッカー連盟）

2005年より Over40 カテゴリーでシニアに初参加し、20年目の節目となる今年に佐藤也寸志前委員長より委員長職を引き継ぎました。

シニアの活動は年を追うごとに活発化しています。今後もシニアの活動を盛り上げ、生涯スポーツとしてのサッカーを自らも楽しみながら、その素晴らしさをできるだけ多くの方々にお伝えしていければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

中山 千恵美 理事

事務局での経験を活かし、これまでのサッカーキャリアを通じて、様々な分野での関わりを深めたいと考えています。審判や指導者、女子サッカーの関連分野を強みとしており、各連盟の事業にも精通したいと考えています。新会長からの任命を受け、期待に応えるべく積極的に取り組むつもりです。まずは、現場に足を運び、理事として皆さまに認められるよう努力します。



植田昌利新会長と林義規前会長



全国制覇と生涯スポーツの発展

シニアでは、チーム数の拡大や競技レベルの高まりが Over40 から Over80 にわたる各年代で進展しており、シニア連盟の活動も活発化が進んでいます。そういった中、昨年秋の島原での Over40 全国大会でエリス東京シニア 40 が優勝、今年栃木で開催された Over50 では東京代表同士の頂上決戦となり、優勝が T・ドリームス 50、準優勝が FC 武蔵ユナイテッド 50、秋田で開催された Over60 では T・ドリームス 60 が優勝、Over70 は Super Infinito de Cero が準優勝と、東京代表は各年代素晴らしい成果をあげ、全国において東京のシニアは圧倒的な存在感を示しています。

生涯スポーツとしてのシニアサッカーは、そのような競技志向の強まりと共に、それぞれの力量に応じて仲間と共にサッカーを気軽に、そして真剣に楽しみたいというニーズにもしっかりと応えていくことを大切にしています。60 歳以上の平日練習会、都スポーツ協会主催大会の主管運営などはその一貫です。地域に根ざした都内各市区のサッカー事業とも連携し、いくつかの市区のサッカー協会代表チームが東京都シニアリーグに参戦しています。

Over40 から Over80 にわたる年齢カテゴリーの幅広さもシニアならではの、Over60 以上では 5 歳刻みのカテゴリーも用意しています。昨年 Over80 の公式リーグがスタートしたことは海外の多数のメディアに報じられ、その光景は驚きとリスペクトをもって世界中に拡がりました。年齢の高まりとともにスピードやパワーの低下は避けて通れず、体のケアや怪我の予防が重要となりますが、カテゴリーが上がるたびに「最若手」として活躍できることもシニアの魅力のひとつです。子育てや仕事が一段落し、世間では「シルバー層」といわれる時期にさしかかり時間に余裕ができたことで、それまで以上に精力的にサッカーに取り組むシニアサッカープレーヤーで、平日の駒沢公園は朝から活気に溢れています。これから一人でも多くのサッカープレーヤーに、それぞれのライフステージやサッカーへの向き合い方に応じて、一生にわたって豊かなサッカーライフを過ごしてもらいたいと思いますし、シニア連盟は、より良い環境づくりに今後取り組んで参ります。

オフィシャルサイト

<https://tokyofa-senior.com/>



東京都専門学校サッカー連盟の今

東京都専門学校サッカー連盟では、2020年に発する新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、2年間にわたり活動の休止を余儀なくされました。しかし、創立40周年に当たる2022年度にトライアルシーズンとして活動を再開し、2023年度から通常のスタイルに戻しました。しかし、コロナが残した爪痕は大きく、各加盟校における準備が間に合わず、春季大会は4チーム、秋季大会は3チームの参加にとどまりました。連盟存続の危機と言っても過言でない状況を踏まえ加盟校を訪問し、チーム事情の把握に努めるとともに、連盟活動の目的を今一度共有し、「敬意・挑戦・感謝」という本連盟スローガンのもと、2024年度連盟事業に備えてまいりました。「戦う相手に敬意を払い、自分自身に挑戦し、支えてくださる全ての方に感謝する」ことを念頭に置き、一戦一戦が充実した試合となるよう奮闘努力を重ねていきたいと思っています。正常な状態に戻るには、今しばらく時間が掛かることも想定されますが、40余年の歴史と実績を持つ東京都専門学校サッカー連盟の灯を消すわけにはいきません。本連盟に加盟する専門学校チームの皆さんと共に、この難局を乗り越えるべく、誠実に活動を続け、活気あふれる連盟に戻していきたいと念じております。

本年度の春季大会では、7校の参加表明を頂きましたが、多くの専門学校では、部員不足等によりまだ活動が再開出来る状況にはないと伺っております。本年のスタートとして参加選手全員が参加する選手総会・開会式を、古賀ウェルフェアオフィサージェネラルをお招きし5月23日に開催し、第43回春季大会を開催いたしました。結果は、初出場の日本医学柔整鍼灸専門学校が初優勝し、第30回東京都専門学校春季TAFAPUTTサルフェスティバルでは、日本工学院専門学校が優勝いたしました。

今後は、第34回全国専門学校サッカー選手権東京地区予選会、第43回秋季大会、第34回専門学校海外親善交流試合 台湾と続きます。サッカーファミリーの皆様、当連盟を温かく見守って頂きたいと切にお願い申し上げます。

オフィシャルサイト

<http://www.tafa.jp/>



東京都シニア サッカー連盟

委員長

末永 孝彦



昨年秋のO-40全国大会優勝のエリス東京シニア40



O-50全国の舞台での東京決戦を制して優勝したT・ドリームス50

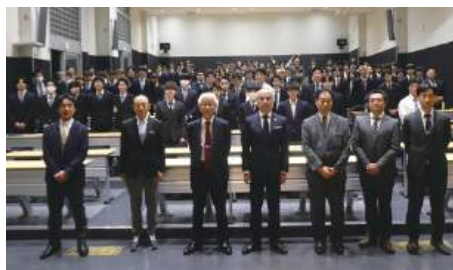


O-60全国優勝のT・ドリームス60

東京都専門学校 サッカー連盟

副会長

横山 重明



24年度選手総会の様子



春季大会優勝校日本医学柔整鍼灸専門学校

東京高体連サッカー専門部の新しい取り組み

2019年度に実施予定だった東京都高体連選抜チームによる海外遠征活動は、新型コロナのパンデミックにより突然の中止となったが、(公財)東京都サッカー協会による支援もあり、4年ぶりに選手17名、スタッフ6名を引き連れ、2024年3月25日～4月2日まで7泊9日に渡りドイツ・オランダ・ベルギーを拠点とする欧州遠征を実施することができた。現地での交流試合では、フォルトゥナ・デュッセルドルフ(ドイツ)、NEC ナイメヘン(オランダ)、シント・トロイデン(ベルギー)のユースカテゴリと対戦し、国内では気付けない多くの成果と課題を獲得することができた。

ベルギーでは、現地で活躍する日本人選手(岡崎慎司選手、鈴木彩艶選手他)から直接激励を受け、交流することができた。また、板倉滉選手が出場するポルシア・メンヒェングラートバッハの公式戦を観戦して欧州のサッカー文化に触れるなど、選手、指導者にとっては言葉に言い尽くせない経験をして無事帰国した。この活動は高体連のみならず、将来必ず東京のサッカー界に還元されるものと信じている。今年度はタイへの海外遠征が実施されるが、多くの選手と指導者にとって夢のある活動として今後も発展することを切に願っている。

高体連では審判部を中心に、ユースレフェリー(高校生審判員)の育成を本格的に進めている。2年前より研修を受けた3級以上のユースレフェリーが東京都大会の副審を担当し、大会運営に貢献している。今年度より、段階的ではあるが都大会の主審にもチャレンジしていくことが決まった。「公式戦の勝敗がかかった試合で、ベンチなどからの批判があった場合に守れるのか」などの意見も寄せられたが、ユースレフェリーの成長には欠かせない経験であり、選手やチームのリスペクト精神の醸成という点からもメリットは大きい。全国的に活動の場を広げ、今年度、J ヴィレージ(福島)で行われたインターハイ(全国総体)で東京から派遣されたユースレフェリーが副審を担当した。また、高体連より東京都で初めてユースレフェリーとしての2級審判員が誕生し、活躍が期待されている。今後、多くの試合でユース審判員が活躍することが日常となり、多くの方々に認知されるよう高体連としても多くの人材を輩出してサッカー界に貢献したい。

オフィシャルサイト

<https://tokyosoccer-u18.com/>



東京都高体連 サッカー専門部

委員長

川人 健太郎



フォルトゥナ・デュッセルドルフ(ドイツ)にて



シント・トロイデン(ベルギー)のクラブハウス前 撮影日2024年3月30日



日本高校選抜の時之栖で行われた選考合宿に参加したユースレフェリー

東京勢健闘、藤枝強し

手元に第34回全国自治体職員サッカー選手権大会の大会プログラムがある。2004年7月23日から28日まで静岡県藤枝市で開催された全国大会だ。32チームが参加し東京からは東京消防庁と町田市役所が出場しており、チームプロフィールには、「第20回記念大会に全国デビューした」(消防庁)、「4年連続11回目の出場となる」(町田市)と書かれている。そして20年後の今年第50回(東日本大震災や新型コロナウイルスで中止あり)を迎えた全国大会が48チームの参加で再び藤枝市で開催された。ちなみに過去49回のうち34回は藤枝市役所が制し第43回からは7回連続優勝しており別格の存在である。

5月8日から始まった東京都予選(21チーム参加)は、当初全国大会の出場枠は3チームで6月1日の準決勝は全国出場確定か3決に回るかシビアな状況を想定したが、前日に出場枠1増との連絡が入り試合開始前に主将に伝えた。4チームとも試合前に選手に報告した様子はなく白熱した試合が行われた。6月8日の決勝戦は東京消防庁1-0杉並区役所、3位決定戦は練馬区役所2-1町田市役所となり4チームが全国大会に出場した。

東京消防庁(出場24回目)は第35回宮崎大会で全国初優勝し、第36回大会から第48回大会まで実に10回決勝で藤枝市役所と対戦し、第39回前橋大会、第42回にかほ大会で藤枝市役所を破り優勝している。杉並区役所(出場6回目)は昨年のひたちなか大会3回戦で藤枝市役所(1-6)と対戦している。練馬区役所は第43回七尾大会以来3回目の出場となる。町田市役所は第48回Jヴィレッジ大会で3回戦まで勝ち上がっており17回目の出場となる。

全国大会(7/26～8/1)の結果



東京消防庁サッカー部

東京消防庁
2回戦 3-1 (福岡市役所)
3回戦 3-0 (山口県庁)
準々決勝 0-0 PK4-5 (甲府市役所)



杉並区役所サッカー部

杉並区役所
1回戦 3-0 (室蘭市役所)
2回戦 1-1 PK5-3 (大分県庁)
3回戦 1-0 (古河市役所)
準々決勝 0-3 (習志野市役所)

東京都自治体職員 サッカー連盟

会長

齊藤 功



練馬区役所サッカー部

練馬区役所

1回戦 4-0 (佐賀市役所)
2回戦 2-1 (和歌山県庁)
3回戦 0-1 (甲府市役所)



町田市役所サッカー部

町田市役所

1回戦 1-1 PK5-3 (山口市役所)
2回戦 1-1 PK6-5 (長野県庁)
3回戦 0-0 PK3-4 (山梨県庁)

※市制施行70周年、蹴球都市100周年の記念の年に全国大会を開催したサッカーとともに時を刻み、まちづくりに活かす藤枝市に多くを学ぶことができた。また、東京都代表の全チームがベスト16以上に勝ち上がったのは快挙!

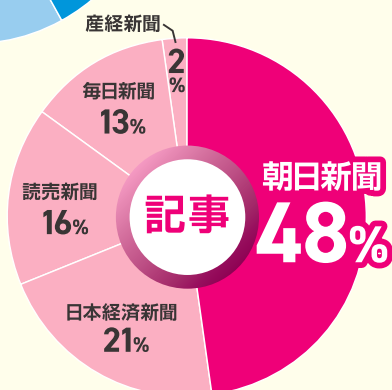
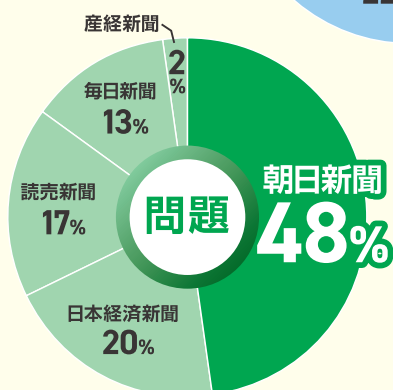
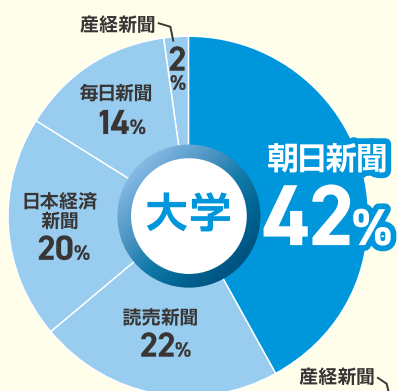


オフィシャルサイト <https://www.tokyofa.or.jp/category/league/jichitai.html>

朝日新聞は 2024年度も 大学入試出題数 No.1※



全国紙の2024年度大学入試出題実績



※大学通信調べ(2024年5月31日現在)。全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)、回答数777。

朝日新聞

ご購入・お試し読み
受付時間 7:00~21:00

0120-33-0843

